

四月一日

七時世田谷村発。中央高速を走り富士嶺の現場へ。八時半現場着。沢山の工事車輛クレーン、職人さんで活気を呈している。ようやくにして七割方建築はでき上がりつつある。良い仕上がり具合で気持ちも和む。ここ数年の建築では一番納得のゆくモノになるだろう。墓場の方も湿り気のない明るい感じで出来上がりそうだ。八十八基のステンレスの墓が林立する様は現実離れしていて仲々良い。中川さん等と現場で会う。気に入ってくれている様だ。富士山を建築の外外にとり込んだのが成功した。これなら二川幸夫に見せても良いだろう。これに文句つけるようだったらオヤジも眼が無いね絶対。十二時過現場を去る。十五時半講談社園部さん来室。家いじりの本の件。研究室の女性たちでまとめさせるつもりだが出来るかな。本を作るのが結構大変なのを知るのも良いだろう。明日の住宅ミイレーティングの中心の話題にする予定。十時北園君来室。皆が私の誕生日を祝ってくれた。照れるところが私もまだ若い。今日は富士山の現場が何とかかなりそうで、それが何よりの救いになった。建築一つの出来不出来で喜んで、悔やんだり。変な事を続けてるって自覚はあるが止めようがない。

四月二日

十時前研究室。十時半住宅ミイレーティング。長引いて十五時迄スタッフ、院生をあの手この手で励ましながら、生き生きとさせ

ようとしてるんだが、これが仲々通じない。十六時東京ガスオゾン。島崎日本フィンランドデザイン協会理事長と会う。フィンランドに計画するパビリオンの件。十七時前修了。空腹で倒れそうになりながら、五反田へ。朝、昼食べてないんだ。十八時トモコ一ポレーション。友岡社長打合せ。新木場モバイル倉庫、煮つまつてきた。打合せを重ねる毎に良い案になってきている。一人で考えているよりも社長と対話しながら作っているスタイルが我ながら面白い。ライブで設計してるって感じかな。二十一時修了。友岡清秀君と三人で食事。猪苗代湖の計画等を話し合う。メディテーションセンターの話は面白い。前に進むような気がするな。この話しは。四月十日は猪苗代にテント泊まりで行こう、という事になった。二十三時食事をおえて別れる。世田谷村戻り二十四時。

四月三日

朝、河野鉄工世田谷村に。早速地下室の地上にポツカリ開いた穴をふさいでいたブラックの木造をとり壊し始める。書庫増築の準備工事。良い陽気でズーツと工事を眺めていた。楽しいね、職人達が手際良く働いているのを見ているのは。森川君達が地上に残したトイレの修繕をやっているのも見た。八八八、職人の動きとは全然ちがうね。職人は頭が良い。半日で取り壊し修了。現場で庭の事その他いくつかのアイデアを得る。十五時過河野君と研究室へ。三ノ輪の図面をわたす。今年は幾つかの現場を依頼する。十六時五〇分、木場の屋台船へ、私の六〇才のお祝いを研究室〇B、七回生までが催してくれた。夕刻の良い時間で隅田川の桜を楽しむ。皆、大人になって、それぞれにやっているようだ。こんな時にチョッピリ先生やっててひどい目に会ってるけど、マア少

しは良かったかも知れないと思う。驚いた事に寺本がバルセロナまで行って外尾悦郎の私の還暦祝いのビデオインタビューをとってくれていた。又、同じく川合健二夫人花子さんのインタビューも。これには正直、うれしかった。石山研の奴はここまでやるかと思つたね。三時間程で修了。何人かでタクシーを使い帰途、途中これも仰天、タクシーが交差点で右から入った車と衝突。私と他二名は救急車で深川の病院に運び込まれ、レントゲン、その他というアクシデントに見舞われた。大した事故だった様で二台の車がクラッシュして相手方の車は銀行かなんかのビルの一階を大破させて、つぶれていた。死亡事故でなければ良いが、こちらはアレヨ、アレヨの間に救急車で何も解らず。病院をおえて指示に従つて深川警察へ。ノロマな対応にいらつき、遂々声をはり上げてしまった。事故調査書を取られ他二名、心配してついできたOB達総勢六名で警察の二階にたむろす。柳本君のコブの大きさが心配だが、私の足の方は時間が経つてから痛み始めた。助手席に乗つたんだから当然私のダメージが大きい筈なのだが、良くわからん。ともあれ私の六〇代はこのような形で幕を開けたのだった。良かったと思う。OB達も深夜再び青山のアルクルに集まりしんみりとしたのだが、まことに石山研らしい祝還暦の会であつたと言つのが、皆の印象だつたようだ。後続車の連中の方が驚いていたのがわかつた。眼の前で石山の乗った車がクラッシュしたんだから。事故車の中から私がピヨッコリ出てきた時は又、驚いたらしい。事故を起こしたタクシーの運転手も警察で会つたが青い顔はしていたが、何か夢心地のようであつた。タクシー運転手が一番ダメージがなかつたな。しかし、事故というものは、そんなものらしい事がわかつた。OB達が世田谷村、研究室双方に事故に遭遇したけれど平気だから心配しない様に連絡したので、大騒

ぎにはならぬようにしたつもり。だが、どうなる事か。マ、これが私の六〇代の始まりであつた。一時過、世田谷村帰還。

四月四日 日曜日

一夜明けて、事故で打つた右足が痛い。口ビルもはれている。OBに連絡して、他二名の状況を聞かせる。事故をおこした国際自動車から電話あり。今後の件で、つまり治療の件見舞いの件でうかがいたいと言う。やっぱり事故だった、のを実感する。現実と非現実とは薄皮一枚でへだたっているんだな。十一時頃、痛む足をひきつづつて世田谷村を出る。今日は富士山の観音堂の開山式。全国から沢山の人が集まるので、行かなくてはならない。十三時前、濃い霧の中を富士山嶺着。沢山の車と人で寺はごつた返していた。こんなサイの河原みたいところに、人が集まるのも不思議である事だ。初代聖徳寺住職に永代供養の証書の件でつめ寄り強談判。小雪降り始める中、下山する。途中中川さんの別荘マンションに寄る。十六時三〇分去る。本格的な雪になつた。満開の桜と雪。十九時過武蔵野市緑町の母親のところへ寄る。めつきり母も老けた。同じ事を繰り返して、繰り返すところなど、ボケ始めかも知れない。気も弱くなつた。早く世田谷村に來させなくては。二十二時世田谷村着。本当は動いてはいけな一日だつたと思う。右足激痛で歩ける状態ではなくなっている。昨夜は笑つていたけれど、笑い事ではないぞコレワ。ミセス、原稿書こうと思うも書けず。困つたな。

四月五日

七時半起床。十時前、ミセス原稿書きおえる。すぐにFAXで編集者に送附。六〇才になったのだからチョツと我ママな原稿に

した。もともと、私は人に気を使い過ぎるのが欠点だから、これは是正したい。足の痛みは、昨日よりはマシになったが、まだまだ歩ける状態ではない。今日のスケジュールはどうするかな。午前中は動くのは止そう。足は痛い、腹だけは減るな。本当に人間の身体そのものは精神性に欠けるものなのだ。世田谷村二階から、満開の桜を眺めているのも悪くはない。来年は花見は世田谷村でやる事にしよう。これで十分である。FAXその他で研究室と交信。十一時過痛む足をひきづって車に乗り、西早稲田観音寺墓参。私のデザインした寺だが、久し振りに来てみれば、マアマアの出来だったかも知れない。昔の仕事は皆嫌いでも一つも見たくないのが正直なところであるが、どうしたことであろう。観音寺は低くつぶれた様ところが良いと感じた。正面の濃い紅色の壁も悪くはない。ネパールから持ち帰った真鍮の壺を埋め込んだものに、花を生けてきた。墓参後目白大村屋でソバ、揚子江で遅い昼飯をとって、十七時半世田谷村に戻る。

夜、研究室とやりとり。